



山王台だより8月号

令和2年 7月31日
横浜市立山王台小学校
〒235-0016
横浜市磯子区磯子5丁目2-1
TEL.045 (755) 1107

【学校教育目標】自分のよさに気づき、相手の気持ちを大切にしながら、ともに高め合って生きる

マスクの下の表情に思いをめぐらす

校長 志田 一彦

新しい生活様式が示されてから、私たちの生活にマスクが欠かせないものになってきました。学校でもほとんどの時間、皆、マスクをして生活しています。

私たちは、子どもたちの気持ちをその言動や表情から把握していますが、今は、顔の下半分はマスクで覆われているため、表情をよみ取ることが難しい状況にあります。それは、おそらく子どもたちにとっても言えることで、相手の気持ちを十分に感じ取れないまま、コミュニケーションをとっていることがあるかもしれません。

アメリカのメラビアンという心理学者は「感情や気持ちを伝えるコミュニケーションをとる際に、どんな情報に基づいて印象が決まるのか」という研究を行いました。その研究によると、相手から受ける印象は、「見た目、表情やしぐさ」などの視覚情報からが55%、「声のトーン、話す速さや声の大きさ」などの聴覚情報からが38%、「話の内容」などの言語情報からが7%という結果だったそうです。つまり、相手の感情や気持ちを把握する際には、視覚からの情報が5割以上を占め、言葉からの情報は1割にも満たないこととなります。

例えば、「つまらなそうに楽しい」と言っても、聞いた相手には楽しいという言葉の情報よりも、つまらなそうという表情からの情報が印象として強く残り、また、「笑いながら怒る」という態度をとると、怒られている相手は笑っているという表情からの情報を優先してとらえ、本心では怒っていないと感じるそうです。相手から受け取る感情や気持ちは、相手の言葉よりも、その表情によるところが大きいことを物語っています。

口元は表情をよみ取るうえでとても大きな要素です。そう考えると、口元を隠しているマスクは子どもたち同士、そして、教師と子どもたちとのコミュニケーションを図るには、大きな妨げになっているかもしれません。

しかし、マスクをつけての生活は、しばらくの間続きそうです。新型コロナウイルスの影響で子どもたちの心理面にも大きな負担がかかっていると思います。私たち大人は、子どもの心の変化を感じるアンテナを高くし、子どもから発せられる様々な情報をしっかり受け止めながら、子どもの気持ちを把握することが大切になってきます。

マスクの下の表情に思いをめぐらせながら、子どもたちの心の動きをより丁寧に見とる努力をこれからも続けていきたいと思っています。

明日から夏休みに入ります。例年より3週間ほど短い夏休みとなりますが、厳しい暑さも予想されます。お子様の健康管理と安全へのご配慮をお願いするとともに、保護者、地域の皆様方も健康にご留意してお過ごしください。